

北東方面から城山城を望む



城山城を知る

～海洋と街道を望む山城～

【城郭データ】

遺跡名：城山城（河原城）
 時代：室町時代（推定）
 城主：不明
 主な遺構：腰曲輪、切岸
 登山条件：城山自然の森駐車場から登山道有
 所在地：豊北町大字神田上河原

地域を守る城はその後、響灘に生きる漁師たちを見守り続けた。

【城山城の概要と特徴】

豊北町の響灘沿岸より内陸部に入った山地にある。江戸時代に記録に平坦面や井戸の存在が記されているものの詳細は不明。

現地には曲輪などが残されている。城山城より北側には肥中街道と肥中港があり、その立地から見張りや通信伝達の役割であったと思われる。

城の用途が失われてからも、響灘を漁場とする漁師にとって重要な山立て（目印）として存在し続けた。



【上神田村地下図】（山口県文書館蔵）

延享四年（1747年）の防長地下上申には河原村に城があり、平坦面と井戸があるものの、由来や城主などはわからないとされ、古城の伝承が江戸時代には残っていたことが知られる。



城山城のあるところ～肥中街道を抑える要所

城山城は現豊北町中心地の滝部より南東側丘陵地にある。中世の滝部から肥中港を通る街道を見おろす位置にあり、交通の要所を抑える役割があったと思われる。

【アクセス】

滝部市街地を横断する県道39号線を南下。途中、土井ヶ浜方面に右折し、なし選果場を更に右折。丘陵左手「城山自然の森」看板が目印。駐車場あり。



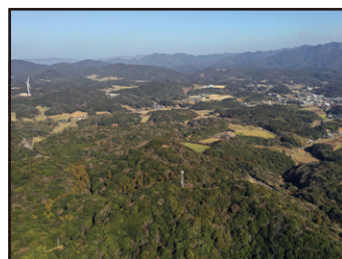
A. 城山と杓子山一帯は「城山自然の森」として、東側麓には駐車場があり登山道も整備されている。



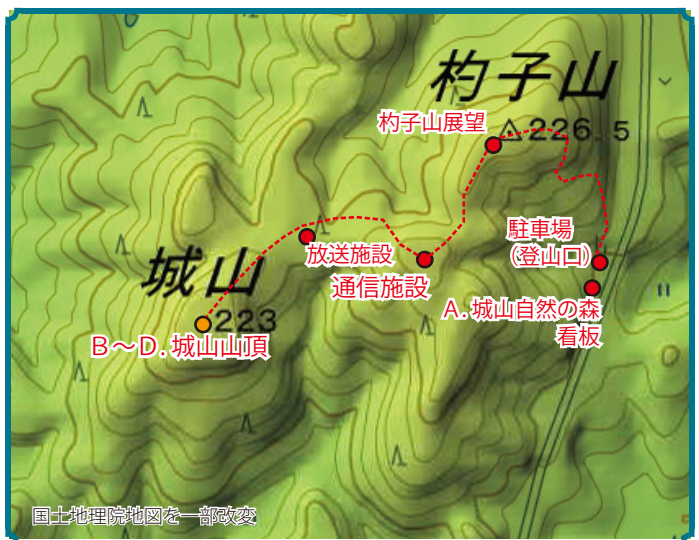
B. 山頂には旧陸軍により昭和12年に設置された地帯標もある。第二次大戦を控えた下関要塞守備隊の遺構である。



C. 山頂には地区住民により海の神様である金毘羅神がお祀りされており、海との関りがここにも見られる。



D. 山頂上空からの滝部方面の眺め。東西に横断する響灘方面へ抜ける肥中街道も見える。



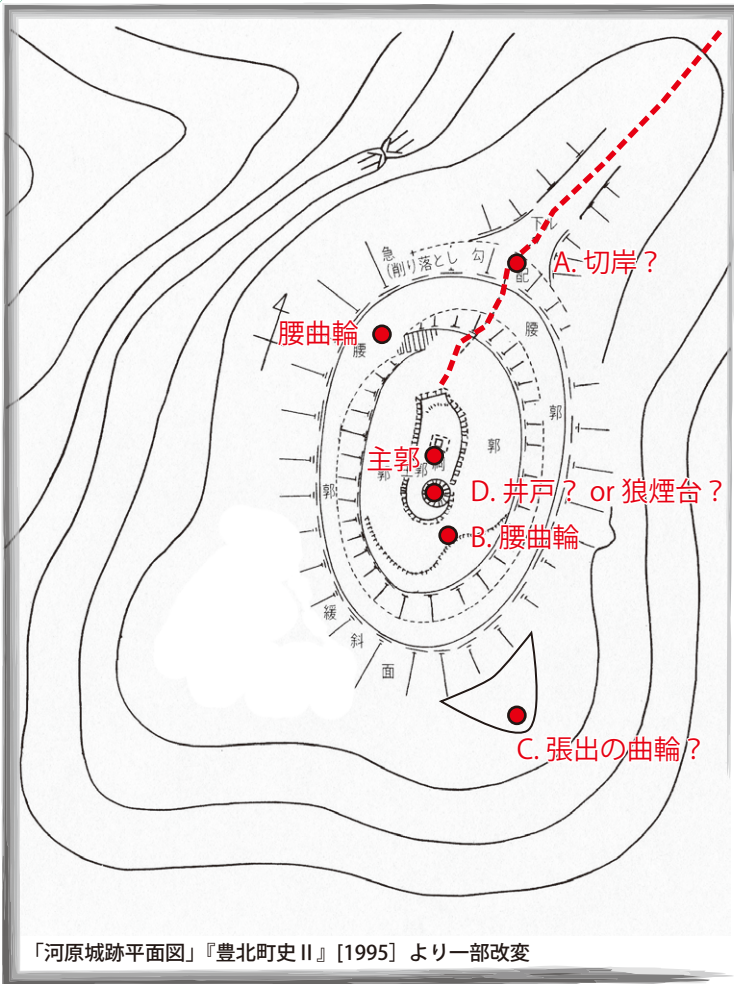
【城山城の縄張り】

豊北町の南西にあり低い山塊が集まる中で少し頭を出す丘陵に立地する。東西に二つのピークがあり、西側ピークが城山と呼ばれる。更に南北の瘤に分かれ、北西の頂部が女城山、南の頂部が男城山と呼ばれている。ただし、城郭遺構が見られるのは南側のみである。

城郭は頂部を主郭とし若干高まりを造る。その周りに輪状に取り囲むように曲輪が巡る。南東方向に平坦面が張り出すがはっきり曲輪と呼べるものではない。周囲には堀などは見当たらず、急斜面を人為的に造成した切岸とも考えられる。主郭の南寄りに窪地があり、地下上申にある井戸とも考えられる。

城郭としては小規模で、防御性も決して高いとは言えないため物見や狼煙場の役割りとも考えられ、主郭の窪地が狼煙跡の可能性もある。

城山城を攻める！



「河原城跡平面図」『豊北町史II』[1995] より一部改変



A: 尾根下から山頂を見上げた様子。急斜面は意図的に削った「切岸」の可能性あり。



B: 腰曲輪より主郭部を見る。一段高い造りをしている。



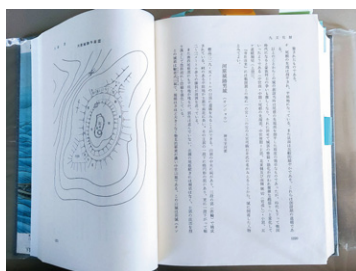
C: 南西側に緩やかに下る斜面。わずかに張出を造る曲輪のようにも見える。



D: 主郭内部には窪地がある。井戸とされるが、狼煙跡の可能性もある。



城郭カードが置いている豊北歴史民俗資料館。大正時代の建物は山口県有形文化財。



豊北町史には、その他にも豊北町の城跡が載っています。

もっと城山城を知りたい…

【参考となる資料】

- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 - 長門国編 -」(2017) 山口県教育委員会
- ・「豊北町史」(1972) 豊北町役場
- ・「豊北町史II」(1994) 豊北町
- ・「防長山野へのいざない第2集」(1998) 金光康資

【その他のご参考】

- ・下関市教育委員会文化財保護課：過去に調査をおこなった記録があります。(083-252-3867)